



12音のブックトーク 《あかね書房》 こまつ あやこ／作



みなさんは、学校や友達の前で“本当の自分”を出すのが怖いと感じたことはありますか？ありのままの自分を出すことで、人から嫌われてしまわないか不安に思ってしまう人もいないでしょうか。

この本の主人公の初奈も、中学校入【F913.6/コマ】学から、学校では猫をかぶって過しています。ある日、『もう猫をかぶりたくない』と本当の気持ちをノートに書いたところ、同じ年のユズナと入れ替わってしまいます。初奈は、入れ替わりとブックトークを通して、学校での自分の在り方について考え、クラスメイトとの関わりをつくっていきます。

ところで、タイトルにもある「ブックトーク」について、みなさんはご存じでしょうか。ブックトークとは、一つのテーマに沿っていくつかの本を紹介することです。作中のブックトークで紹介される本のほとんどは、現実でも出版されています。もし自分がブックトークをするならば、どんなテーマで、どんな本で行うのか、ぜひ想像してみてください。

「争い」入門 《亜紀書房》

ニキー・ウォーカー／著、高月園子／訳

突然ですが、皆さんは Nintendo Switch2 のネーミング、いいと思いますか？ダサいと思いますか？

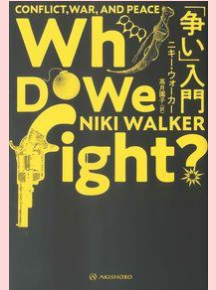
2号は Play Station みたいな正当進化感があると思うのですが、弟はダサいと感じたようで、互いに譲らない言い争いをしていました。

そんなどうでもいいような争いがあれば、重大な争いも世界には存在しています。ウクライナやパレスチナの情勢が不安定になり、毎週ニュースで戦況が報じられていますよね。

人同士の争いなら、最終手段として絶縁することができそうですが、領土が接する隣国同士の場合はそうもいきません。

この本では、なぜ人は争うのか、そしてどのようにして平和を目指していくのかを解説しています。

難しい国際紛争のニュースも、この本を読めばわかりやすくなるかも。



【319.8/ア】



RDG レッドデータガール はじめてのお使い[1] 《角川書店》 荻原 規子／著

中学3年生の泉水子（いずみこ）が生まれ育った玉倉神社（たまくら）は、山伏（やまぶし）の修験場（しゅげんじょう）として世界遺産に認定されている山深い場所。

特殊な家庭環境ですが、泉水子自身は引込み思案でまだまだ垢ぬけない普通の女の子。ただ、携帯などの電子機器を使用すると、壊れてしまうことが何度もあり、機械には苦手意識がありました。

ある日、パソコンを使う授業で泉水子は不思議な感覚になり、気づいたときには学校すべてのパソコンが停止していました。そこから泉水子の日常が大きく変化していくのです。

このシリーズは6巻完結。壮大な物語のはじまりです！



【TF913.6/オキ】



『ときめく文房具図鑑』 《山と溪谷社》 山崎 真由子／文、今野 光／写真

みなさんは愛用している文房具はありますか？私は、100円ショップに売っているボールペンを気に入って愛用しています。文房具は日常に欠かせないとても身近な道具ですよね。だからこそ機能性やデザイン、価格などこだわりのある人も多いのでは。お気に入りのものを使っていると気分が上がりますよね。

今回紹介する本では「書く」「書かれる」「消す」「切る」「測る」「貼る」「留める」の7つの観点から、定番アイテムや懐かしい文房具の魅力を紹介しています。他にも文房具ショップ探訪や、さまざまな職業の方の愛用文房具、文房具の豆知識、消しゴムはどうして消えるのかといったメカニズムについてまで盛りだくさんです。より文房具に愛着が湧くときめきの詰まった一冊です。

【2Fポピ H589.7/ト】





「嘘をつく」とはどういうことか

《筑摩書房》 池田 喬／著



「嘘をつく」ことは悪いことだと、小さい頃から教えられてきた人は多いのではないかと思います。では「優しい嘘」をつくことは、悪いことだと言えるのでしょうか。

この本では、「嘘をつく」ことについて真剣に考え、論じています。嘘をつくとは何をすることなのか、嘘をつくことの

【I383.8/シ】何が悪いのか、なぜ人は嘘をついてしまうのか…。普段はなかなかじっくりと考えないことではありますが、内容を追っていくうちに、嘘をつくときの自分の心理状態を暴かれているような感覚になりました。

個人的に一番はっとさせられた気づきは、嘘をつく前に嘘をつく以外の選択肢を考えるとということでした。冷静になって考えれば当たり前のことですが、叱咤の場面では見逃しがちなこの気づきを得たことは、大きな学びとなりました。

新書は固いことが書いてあるイメージが強いですが、身近なことをテーマにしているものから読んでみると案外すらすら理解できるので、オススメです！

スガリさんの感想文はいつだって斜め上

《河出書房新社》 平田 駒／著

自由研究と並ぶ夏休みの宿題の難敵の一つ、読書感想文。近年はガイドがあって書きやすくなっていると聞きましたが、本当なんでしょうか。

名古屋にある鶴羽学園の家庭科教師・直山京介は、美少女転入生・須賀田綴に「読書感想部」の顧問になるよう依頼されます。利害の一致により顧問となった直山の周囲では、感想文の題材となった図書の内容とどこかリンクした事件が起こり…？

タイトルの通り、スガリさんの読書感想文はほかの人とは異なる着眼点で驚かされます。題材にしている図書も、夏目漱石の『こゝろ』や新美南吉の『手袋を買いに』といった、みんな知っているものが選ばれているのでわかりやすいです！もし知らなくても本編の内容がわからない、ってことにはならないのでご安心ください！



シリーズもたくさん出ているので、題材になった本たちと一緒に借りて読んでみませんか？

【913/ヒ】



苦手から始める作文教室

(文章が書けたらいいことはある?)

《筑摩書房》津村 記久子／著

私は文章を書くことが苦手です。夏休みの宿題で出される読書感想文は、私の書いたあらすじでネタバレになるんじゃないか…と思ってしまい、あらすじを書き出せませんでした。好きな本や友達に勧めたい本はあるのに読書感想文となると本を勧めたい気持ちはどこかに行ってしまいます。

作文が苦手なまま大人になってしまいましたが、やはり文章を書く機会があります。そこで、この本を見つけました。エッセイを読む感覚で読み進められるので、作文の苦手克服のために読むのはもちろん、隙間時間になんとか読んでみるのもいいと思います。

私は、日記をつける習慣はないけど、日常で思ったこと、すてきだと思った言葉、やりたいこと、行きたい場所などは書いていきたいなと思っています。(なかなか続かない) そういうメモを数年後見返して楽しい気持ちになったことがあるので、書くって大事だなと思います。

【861/ニ】



豆の上で眠る

《新潮社》湊 かなえ／著

小学一年生の時、神社からの帰り道で結衣子の二歳上の姉・万佑子が失踪した。家族で必死に探すも消息をつかめないでいたが、二年後、姉は帰ってきた。しかし喜ぶ家族の中で自分だけが、大学生になった今も拭えない違和感を抱いている。はたして姉は本物なのか。

現在と過去の話が交差しながら物語は真相へと進んでいきます。自分だけが違和感を抱いているという状況が孤独でとても怖いですね。ミステリーを読みたいかたにおすすめです。また、物語に登場するアンデルセン童話『えんどうまめの上のおひめさま』も図書館に所蔵されていますので、気になるかたは読んでみてください。

【2F ポピ F913.6/ミナ】

